



北陸認知症プロフェッショナル医養成プランの全国展開

小野 賢二郎

金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科 脳神経内科学教授、認プロプロジェクトリーダー

背景と目的

超高齢社会に突入している我が国において、認知症患者数は増加の一途をたどっている。一方で、認知症医療に携わる医療者数は十分とは言えない。特に高度の専門知識・医療技術を有し、認知症医療の中心を担う人材の不足を解決することは、我が国において喫緊の課題である。北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は、2014年度からスタートした文部科学省の事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』に採択されたプログラムで、“認知症の真のプロフェッショナル”の育成を目標としている。

活動の方法

認プロは、北陸医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）の拠点ネットワークを中核に関連医療機関等が連携して取り組んでいる。2018年度で文部科学省による支援は終了し、2019年度からは4大学の自己資金に基づき、事業継続している。

コロナ禍以降は、オンラインを中心とした体制での事業を継続し、北陸のみならず全国の認知症プロフェッショナルの人材育成に貢献している。具体的には、ウェブ上でのe-learning講義の提供、毎月1回行う認知症に関連した症例について検討する「デモンシアカンファレンス」、認知症に関連した分野のプロフェッショナルによる講演会「シンポジウム」や「FD講演会」の開催を行っている。

現状の成果・活動

2022年10月18日には、『第6回認プロシンポジウム・COVID-19と認知症』というテーマで、オンライン形式にてシンポジウムを開催した。COVID-19感染と神経障害、そしてコロナ禍と認知症患者を取り巻く環境の悪化は切っても切れない関係にある。そこで、COVID-19感染後にも様々な症状を呈するlong COVIDの病態や、コロナ禍における認知症診療のあり方について正しく理解し、社会全体で患者さんを支えていくシステムづくりについて考えるととても良い機会となった。

講演はまず、下畑享良先生（岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野 教授）から、「Long COVIDの臨床と病態」と題して、COVID-19の感染によって生じる神経症状や、認知機能への影響、そしてその病態病理について最新の知見を交えてご講演いただいた。

つづいて稗田宗太郎先生（昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 准教授）からは「COVID-19は認知症診療に影響を与えたのか」と題して、COVID-19が認知症医療とそれを取り巻く社会環境に与えた影響について、認知症診療の現場から見たリアルな現状についてお話しいただいた。

最後に篠原もえ子先生（金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学 准教授）からは、「コロナ禍が地域高齢者の精神健康状態と活動に及ぼす影響」と題して、コロナ禍が地域高齢者の精神健康状態や活動にどのような影響を及ぼすのかについて、地域住民に対するコホート研究の結果をお話しいただいた。

COVID-19の感染や、long COVIDがいまだ問題となっている社会で、我々医療者はどのように医療を行っていけば良いかという問題を考えていく上で、参加者にとって大変有意義なシンポジウムとなった。本シンポジウムには、医師、研究者、教育コース履修者等を含め100名を超える参加があった。



今後の展望

認プロの今後の展望は、北陸だけでなく、全国展開を視野に医療従事者への認プロの教育プログラムやセミナー等をより一層拡大し、北陸地域の事業で培った経験をもとに我が国の認知症専門の人材を幅広く育成していく事業展開を予定している。

最後に、第6回認プロシンポジウムを開催するにあたり、我々の活動にご賛同いただき、活動資金の助成をいただいた、公益財団法人杉浦記念財団様には厚く御礼申し上げます。

